

平成 30 年度 津高東京同窓会総会・親睦パーティ報告

平成 30 年度津高東京同窓会が、5 月 26 日土曜日例年通り霞ヶ関ビル 35 階東海大学校友会館にて開催されました。本年度の同窓会は平成最後の同窓会になります。テーマは、「甦れ！青春、深めよう！絆」です。津中昭和 24 年卒の大先輩から、この春に卒業したばかりの新会員まで総勢 197 名が一堂に集いました。出席者の内訳は、一般会員 189 名（内、新会員 9 名を含む学生が 15 名）、来賓 6 名、及び恩師 2 名でした。残念ながら、当日 4 名が欠席されたため、結果的に 200 名を超えることができませんでした。

当日は薄曇り空で富士山を望むことはできませんでしたが、2020 年の東京オリンピックに向けてでしょうか、屋上にクレーンを載せた建設中のビルをいくつか眼下に見ることができました。

1. 総会・親睦パーティの準備

今年度の輪番幹事は昭和 46 年卒と 58 年卒です。これまで事務局の方々とともに度々会議や準備を行ってきました。9 時に会場に集合し、全体ミーティングを行いました。事務局の脇田さん、落合さんからの挨拶、説明の後、分かれて担当別のミーティングを行いました。最も大きなグループである 58 年卒が担当の受付・誘導には、落合さんから念入りに説明がありました。そして、いよいよ最後の準備開始です。各自持ち場につきました。



10 時より後半の歓談をリードするテーブルマスターへの説明を開始しました。テーブルマスターは事前に依頼していた 46 年卒 11 名、58 年卒 10 名の皆さんです。

10 時 20 分より来場者の誘導を開始しました。案内・誘導は 58 年卒の担当です。1 階車寄せ、2 階ロビーホール、会場のある 35 階エレベータ前で案内を行いました。ビルの入り口をはじめ、エレベータホールにも、開催を案内する立て看板などはありません。初めて参加される方も多いため、大切な役割です。



10 時 45 分より受付開始です。受付は 58 年卒が担当しました。卒業年度別に 4 グループに分けて行いました。例年通り、会場入口に事務局運営への寄付の受付テーブルも設置しました。今年度は会の途中でも司会者から寄付を呼びかけることにしましたので、総会・親睦パーティ開始後も寄付受付テーブルを設置したままにしました。



2. 総会

例年のとおり、卒業年次ごとに丸テーブルを囲んでの着席となりました。総会は事務局の金丸敦子さんの司会で 11 時 30 分に開始しました。



(1) 津高東京同窓会・田村正衛会長挨拶

会の初めに津高東京同窓会田村正衛会長からご挨拶を頂きました。

挨拶要旨：現下の北朝鮮をめぐる米国、中国の動向が心配です。厳しい国際環境の中、国内ではゴシップのようなニュースが駆け巡るばかり。他方、景気循環のサイクルからは、オリンピックが終わって2020年頃から景気は上向くという見方もあります。本日は、限られた時間ではありますが、愉快なひとときをお過ごし下さい。



(2) 事業報告・会計報告

事務局の村主英明さんから、平成29年度の総会・親睦パーティ概要、30年度同窓会の開催までの準備経過、ホームページのリニューアルなどの事業報告と、前回総会、事務局運営、寄付状況などの会計報告を頂きました。



(3) 来賓紹介

続いて来賓の方々が紹介されました。今回は、本部同窓会会長飯田俊司様、副会長佐々木とし子様、同じく副会長三藤治喜様、大阪同窓会副会長米虫和子様、名古屋同窓会副会長三輪征夫様、津高等学校校長中川弘文先生にご出席頂きました。

(4) 来賓挨拶

来賓を代表して、飯田会長と中川校長からご挨拶を頂きました。飯田会長からは三重県や津市、津高の様子、中川校長からは、津高の今後の課題などをお話し頂きました。

飯田会長挨拶要旨：前回の東京オリンピックの2年前は学生でした。そのころの東京では道路工事やビル建設がさかんに行われていましたが、今回もビル建設がたくさん行われており、東京の勢いを感じます。津の話題を三つ紹介します。まず、津市産業・スポー

ツセンター「サオリーナ」が昨年10月1日に開業し、今年のインターハイ、2021年の国体（三重とこわか国体）の会場になります。二つ目は高田本山専修寺の「御影堂」と「如来堂」が建築物では三重県初の国宝に指定されました。全国の現存木造建築物の中で5番目の大きさです。この結果、一身田一带は観光客が増えています。最後に、今年は江戸時代の儒学者で藤堂藩藩校有造館三代目督学（校長）の斎藤拙堂の生誕220年にあたり、様々な周知活動を行っていきます。津高の同窓会の事業としては、有造館にちなんだ津高有造塾では、昨年岡三証券のデジタルシアター（神楽洞夢）で、平成2年卒の京都大学の上野悟さんによる「宇宙天気予報と発展途上国支援」の講演が行われました。今年はエリザベス女王工学賞（工学のノーベル賞）を受賞された昭和47年卒の寺西信一さんの講演を予定しています。また同窓会の海外旅行では、チェコ、スロベニア、ハンガリー、ドイツを訪問する予定です。東京同窓会のますますの発展をお祈りします。

中川校長挨拶要旨：今年で津高校長として3年目を迎えました。今年の津高には三つの課題があります。一つ目は、全国高校総合体育大会（インターハイ）が45年ぶりに三重県で開催されます。15競技のうち津高がハンドボール競技会場になり、生徒が運営に参加することになっています。今行われている三重県高校総体では1年生の魚住るり選手が陸上女子400mで優勝し、インターハイに出場します。とこわか国体には3年生の中尾咲月選手がボート競技で、また津高卒業生で早稲田大学在籍中の伊藤悠貴選手が近代5種競技に出場予定です。二つ目は、津高がスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けました。三重県では初の3期目の指定です。生徒の探究心を伸ばす教育をしていきます。三つ目は、文部科学省の学習指導要領が改定されました。それを見据えてより高い知性と教養をもったリーダーを育てるだけでなく、しっかりした志を持てるように学校運営を行いたいと思います。ますますのご支援をお願いします。



司会者から、8月4日に津で同窓会が開催されることがアナウンスされました。

2. 親睦パーティ

12時より46年卒の夏池静さん、58年卒の都築志摩さんの司会で親睦パーティが始まりました。二人の司会は何れも堂々として滑らかであり、また二人の掛け合いも周到的な準備を反映してか絶妙でした。



(1) 招待恩師紹介

今回は、飯田（浅山）宏先生（担当教科：保健体育 / 津中昭和24年卒 昭和30年4月～42年3月在任）と鎌田敏明先生（担当教科：数学 / 津高昭和46年卒 平成6年4月～8年3月在任）をご招待しました。飯田先生は今年87歳。今回の出席者の中で最年長で唯一の津中出身者ですが、三重県からお元気にご出席いただきました。鎌田先生は今年の輪番幹事（46年卒）と同学年です。



(2) 特別講演『ヒトにもかかる 越境性動物感染症』

続いて46年卒で獣医学の専門家の山家又祐さんによる講演です。山家さんはスイス、アメリカ、ケニア、バングラデシュなどで感染症の研究を続けてこられた感染症のエキスパートです。講演に先立ち、司会者から、あの忠犬ハチ公や現在放映中の大河ドラマ「西郷どん」の西郷隆盛もフィラリア症にかかっていたこと、またハチ公の飼い主の上野英三郎博士は久居出身で、津中で学んだわれわれの大先輩であるという豆知識が紹介され、講演が始まりました。



講演要旨：越境性動物感染症とは国境を越える動物によって運ばれるか否かの違いだけで土着の感染症と同じものです。新しい感染症も出てきており、例えば重症熱性血小板減少症候群（STFS）はすでに西日本の山々でダニの中に病原体が見つかるようになりました。このように風土病が世界中に広まるのが今後も起こると予想されます。

西郷隆盛も罹っていたフィラリア症は、かつて沖縄など南西諸島にもっとも濃厚に見られる風土病でした。戦後、アメリカで開発された治療薬ジエチルカルバマジンを用いて沖縄政府（立法院）、米国政府、日本政府の三者共同によりフィラリア防圧事業が展開されました。副作用の強い薬でしたが、薬剤の眼前投与などで乗り越え、昭和 53 年にはフィラリア保虫者をゼロにすることができました。その 10 年後の昭和 63 年に宮古島で根絶宣言がなされました。また、ほぼ同時期に厚生省認可の国庫補助による事業で 1 都 8 県からフィラリア症が一掃されました。これは風土病を根絶した世界で例のない快挙でした。このフィラリア治療薬は副作用の強い薬だったのですが、大村智博士が副作用のない特効薬イベルメクチンを開発されました。大村先生がその後ノーベル医学生理学賞を受賞されたときは、私は自分のことのように嬉しく感じました。なぜならフィラリア症は日本では根絶されましたが、世界ではまだ 1 億人以上の患者がいるからです。

狂犬病も風土病の一つです。日本ではワクチン接種により昭和 32 年に根絶されましたが、その後 3 例の発症がありました。それは、いずれも海外から持ち込み症例です。しかし、今なお世界中で年間 5 万 5 千人が亡くなっており、ヨーロッパ諸国や米国でも毎年野生動物やヒトにおいて発生しています。

A 型インフルエンザも、もともとは風土病でしたが、突然変異によって鳥インフルエンザや豚インフルエンザに変化しました。ウイルスが繁殖する動物の組織に、ヒトの組織が似ている場合、ウイルスがヒトへも感染することがあります。鳥インフルエンザは中国の広東省の田舎のみで起こっていた鳥だけの病気だったものが平成 9 年に香港でヒトへの感染が確認され、その後 63 ヶ国に伝搬しました。現在も 5~6 か国で土着化してしまっています。なお、鳥にワクチンを接種すると、鳥が罹っても症状が出なくなり、わからないうちにヒトに感染することがあり、かえって危険なことがあります。

渡り鳥に発信機をつけて鳥の経路を 1 年間調べました。鳥が地球規模で移動することがわかりましたが、鳥よりももっと短時間のうちに広範囲に動き回るのがヒトです。今、日本に来る観光客が未曾有の規模で増加しています。様々な感染症が入ってくるのが予想されます。このような感染症の予防には各国が協力して全世界的に解決することが必要です。その役割を担うのが公務員獣医師ですが、なり手が少ないのが現状です。公務員獣医師の処遇改善が必要です。国境を越える感染症対策には、国際協力が欠かせません。この分野で若い人、特に日本人が指導力を発揮することを願って止みません。

(3) 乾杯

乾杯の準備の間に寄付の呼びかけ、さらに6月3日に美杉中学校の生徒による三重テラスでの美杉特産物販売の案内などがアナウンスされました。販売のチラシは受付にも置きましたので、会の終了後、皆さんにお持ち帰り頂けました。

乾杯のご発声は、名古屋同窓会副会長三輪征夫様をお願いしました。司会者からは未成年にはお酒を勧めないよう、ユーモアを交えて注意がなされました。



三輪副会長乾杯挨拶要旨：東京・大阪同窓会に比べて名古屋同窓会は参加者が少ないのが実態です。ノスタルジーは距離に比例するのでしょうか。今、名古屋城は建て直しが計画されており、2022年に完成予定です。名古屋同窓会へもお力添えを。乾杯！

(4) 歓談

乾杯後、卒年次ごとのテーブルでは、近況や在校時代の思い出話などに花が咲きました。歓談、食事の途中、司会者から、席替えの事前アナウンスがありました。

乾杯から約40分後、事前は無作為に割り当てたテーブルへそれぞれ席替えとなりました。新しいテーブルの番号は受付時に渡した名簿に記載されていましたが、各テーブルに立てられたテーブル番号を示す札が、前半歓談時に撮影の都合で外されたままになったケースがあり、一部のテーブルでは混乱する場面がありました。



(5) 席替え後の歓談

新しいテーブルで、テーブルマスターのリードによって後半の歓談が始まりました。

テーブルマスターを引き受けて頂いたのは、46年卒は飯ヶ浜真知子、伊藤高志、岡孝子、小林英俊、瀬田隆信、永浦恵美子、中島充、中村久子、日野雅之、平山欣孝、山家又祐の

各氏、また 58 年卒は尾畑由美子、海住高正、児玉智、清水理、庄司勇木、須藤勝美、中谷三佳、濱村多栄子、平手浩和、松田隆司の各氏です。各テーブルで各自の簡単な自己紹介の後、様々な話題で盛り上がったようです。後でテーブルマスターから提出頂いたアンケートによると、「津高、津市、三重県の今昔」、「部活動、趣味の話」、「就職観、現在の職について、職業について」、「出身地、出身中学」、「将来の目的」、「普段行っているスポーツ」などが話題に上ったようです。

(6) 平成 30 年卒業新会員紹介

今年春に卒業した 7 名を含む新たに東京同窓会の会員になった 9 名が壇上に上がり、出身中学を含む自己紹介や今後の抱負などを述べました。

出席の新会員は、大宅龍介さん、西村知佳さん、前田紗李さん、稲葉陽樹さん、脇田祥奈さん、伊藤悠貴さん、中川有紀さん、庄山和花さん、駒田早代さんの 9 名です。大宅さんからは「高校教師になって三重に戻りたい」と嬉しい言葉がありました。伊藤さんは先に中川校長から紹介のあった近代 5 種の選手で、「今年 7 月にハンガリーでの世界学生選手権に参加する」との決意表明がありました。



新会員が自己紹介で出身中学名を述べると、会場にいる出身中学を同じくする同窓生より大きな拍手が起きました。最後に、司会者のリクエストに応じて駒田早代さんが尾鷲節の一節をア・カペラで披露してくれました。駒田さんが歌い始めると会場から手拍子が沸き起こり、大いに盛り上がりました。駒田さんは、今年の第 32 回尾鷲節全国コンクールで総合優勝しています。

(6) 来年度の輪番幹事挨拶

来年度の輪番幹事は 47 年卒と 59 年卒です。本日出席の両学年の皆さんに登壇して頂きました。幹事を代表して 47 年卒の今北理さんが「来年もぜひお集まりください。楽しい会にしたいと思います」と力強く挨拶されました。



(7) 校歌斉唱

46年卒の中村久子さんの指揮のもと、全員で津中学校、津高等女学校、津高等学校の順に校歌を斉唱しました。

今年度は津中出身者が恩師の飯田先生お一人で、津高女出身者は出席されませんでした。津中、津高女校歌斉唱時にはスピーカーから流れる録音された歌声が主に聞こえましたが、津高校歌斉唱時には大きな歌声が会場に響き渡りました。さらに、飛び入りの、57年卒で元応援団の玉井寛さんの



応援パフォーマンスが場をいっそう盛り上げました。会場に溢れる懐かしい校歌の歌声に包まれて、皆さん青春に思いを馳せ、また同窓の絆を確かめ合ったことでしょう。

(8) 閉会

あっという間に時間は過ぎ、閉会の時間になりました。楽しい時間は瞬く間に過ぎてしまいます。輪番幹事を代表して46年卒の米澤雅之さんが「青春は甦ったでしょうか、新たな絆は生まれたでしょうか」と出席の皆様へのお礼と来年度の輪番幹事へのエールを送り、「来年も来てくれるかな？」と結んで閉会の挨拶としました。会場からは「いいとも！」の聲が飛びました。



会場は次の予約があるため会場スタッフの方々が後片付けにかかりましたが、話が尽きない皆さんは会場に留まって歓談されており、司会者から再三会場を空けるようアナウンスがありました。皆さん、来年の再会を約束して、名残惜しそうに帰路につかれました。

時代の趨勢か、46年卒幹事の殆どが65歳を超えてなお現役で、仕事を背負った中での任務の遂行でした。集まることすらままなりません。途中、困難に直面し、挫けそうになった時期もありましたが、46年卒と58年卒幹事の協力よろしく、また事務局からたくさんのご支援を頂き、無事輪番幹事を全うし、同窓会を成功裏に終えることが出来ました。同窓会終了後、ほっと安堵する幹事の口々から「やってよかった」の聲が聞こえてきました。

最後に、ご出席頂いた皆様、また昨年6月以来11ヶ月に亘り様々なご支援・ご指導を頂きました事務局の皆様へ、心より感謝申し上げます。

平成30年度輪番幹事一同